

## 第6学年 国語科学習指導案

平成27年6月26日(金) 5校時

担任

司書教諭

学校司書

### 1. 単元名 新聞の投書を読んで意見を書こう

「新聞の投書を読み比べよう」(東京書籍 6年)

### 2. 単元の目標

◎ 四つの投書を読み比べ、文章に表れている書き手の工夫について読み取り、自分の考えを書くことができる。

・投書の特徴をとらえ、進んで書き手の主張や説得の工夫を読み取ろうとしている。

(関心・意欲・態度)

○投書の構成、理由づけの仕方や根拠の挙げ方に気をつけて読み比べ、それぞれの書き手の説得の工夫をとらえている。(読むこと)

・自分の考えが読み手に伝わるように、構成を工夫し、理由を明確にして投書を書いている。

(書くこと)

・投書の文章の構成を目的とともに理解している。(言語についての知識・理解・技能)

### 3. 単元を貫く言語活動とその特徴

本単元を貫く言語活動として、「自分の意見を書いて、新聞社に投書しよう」を位置付けた。新聞社に投書となると実際に社会に参画していく意識が働き、そのことで、新聞の投書を読み比べて学ぼうとし、より一層、説得の工夫などを使って、自分の意見を投書しようとする態度が育つであろう。そして、新聞社に投書するために、序論、本論、結論の構成や自分の意見の説得の工夫などを理解して書いていかなければならない。そうすることで「目的に応じて、文章を比べて読む。」ことができる。と考える。(読むこと イ) また、本教材の投書を比べることによって「目的に応じて、内容要旨をとらえ、事実と感想、意見を読む。」ことができる。と考える。(読むこと ウ)

4. 指導計画 (全 10 時間)

	時	主な学習活動	主な教師の支援と指導上の留意点 (担任○司書教諭◎学校司書☆)	評価規準
第一次	1 (5月上旬)	新聞の投書欄に触れ、様々な投書を読んで感想を述べ合う。 ⇒毎週末の宿題を行う。	○感想交流するために5つのグループに分けておく。 ◎導入において、「投書」欄が新聞のどこにあるのか、投書とは何かわかりやすく説明する。 ☆子どもたちに身近な話題の新聞の投書をいくつかまとめ、5セット用意しておく。	【関】新聞の投書について関心を持ち、読んで自分の意見を述べようとする。(発言・観察)
	2	新聞の投書について話し合い、学習の計画を立てる。	○学習の流れを確認し、この学習のゴールを知らせる。 ○単元の初めに、身につけたい力を明確にしておく。 ○毎週の宿題である自分の意見文の中から、投書が書けそうだという作品を選び、自分でも出してみたいという目標をもたせる。	【関】新聞の投書について関心を持ち、投書を書くことに意欲をもって取り組もうとしている。(発言・観察)
第二次	3	投書①②を音読し、二つの投書の書き手の意見や主張、その理由や根拠をとらえる。	○段落の構成を確認し、視覚的に段落構成の特徴に気づかせるために、色分けする。 ◎段落構成の特徴に気づかせるポイントを紹介する。 ・書き手の意見 ⇒緑 ・第1の理由や根拠 ⇒青 ・第2の理由や根拠 ⇒青 ・予想される反対意見に対する反論 ⇒赤 ・書き手の意見(まとめ) ⇒緑 ○2つの意見に対する自分の意見を書かせる。	【読】投書の構成、理由づけの仕方や根拠の挙げ方に気をつけて読み比べ、それぞれの書き手の説得の工夫をとらえている。(発言・ノート)
	4	投書③④を音読し、二つの投書の書き手の意見や主張、その理由や根拠をとらえる。	○段落の構成を確認し、視覚的に段落構成の特徴に気づかせるために、色分けする。 ・書き手の意見 ⇒緑 ・第1の理由や根拠 ⇒青 ・第2の理由や根拠 ⇒青 ・予想される反対意見に対する反論 ⇒赤 ・書き手の意見(まとめ) ⇒緑 ○2つの意見に対する自分の意見を書かせる。	【読】書き手がどのような事例を挙げて説得しようとしているのかを読み取り、自分の考えを明確にしている。(発言・ノート)
	5	自分が最も納得できる投書の一つを選んで、その理由を明確に書き、友だちと意見交流する。	○4つの投書を比べながら読み、共通点と相違点に気づかせた上で、一つの投書を選んで友だちと交流させる。	【読】投書を読み比べて、書き手の工夫を捉えて納得の理由を書いている。(ワークシート)

	6	4つの投書をもう一度読み、それぞれの投書の説得の工夫をとらえ、選んだ自分の作品と比べる。	<p>○4つの投書の説得の工夫に気づかせるために、もう一度読みし、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・投書①自分の経験を述べる</li> <li>・投書②見たり聞いたりしたことを述べる。</li> <li>・投書③資料に基づく具体的な数値を上げる工夫。</li> <li>・投書④有名な人の言葉を引用している。</li> </ul> <p>○選んだ自分の作品に理由や根拠がうまく書かれてあるか検討させてみる。</p>	【読】4つの投書を読み比べて考えたことを伝え合い、自分の考えを広げたり深めたりしている。(発言・ノート)
第三次	7 (本時)	自分で選んだ作品から広がりそうな材料を集め、構成を考える。	<p>○構成を考えさせる材料としてワークシートを用意する。</p> <p>○「理由や根拠」については、教科書のような2つではなく、1つでも良いことを知らせておく。</p>	【書】投書を書く話題や主な主張を決め、読み手に自分の考えが伝わるように工夫して構成を考える。(ワークシート・付箋)
	8	読み手に自分の考えが伝わるように工夫して投書を400字以内で書く。	<p>○書き方を理解するに有効的なので、書いている途中であっても友達の投書を読む活動を必ず取り入れる。</p> <p>☆新聞各社の投書コーナーの宛先を紹介する。</p>	【書】読み手に自分の考えが伝わるように理由を明確にして投書を書いている。(作文ノート)
	9	書いた文章を推敲し、もう一度投書をしあげる。	<p>○友だちのアドバイスから書いた投書を読み返し、説得するための工夫を使っているかどうか振り返る。</p> <p>◎新聞に投書するための書き方を説明する。</p>	【書】事実と意見を区別し、投書という目的に応じた説得の工夫を行い、文章を書いている。(投書・発言)
	10	友だちと書いた投書を読みあって感想を伝え合う。	<p>○できるだけ多くの感想をもらうために、5グループになり、時間を区切って付箋にコメントを書かせるようにする。</p> <p>○投書に挑戦してみてどのような感想を持ったのかふりかえりを行いまとめとする。</p>	【読】自分の意見や主張を述べる際の説得の工夫にはどのようなものがあるか理解している。(付箋、発言)

5. 本時の学習（7/10時）

(1) ねらい

- ・投書を書く話題や主な主張を決め、読み手に自分の考えが伝わるように工夫して構成を考えることができる。

(2) 学習過程

学 習 活 動	指導上の留意点や支援 (担任○司書教諭◎学校司書☆) ★評価規準
<p>1. 学習のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">                     自分の選んだ意見文の構成をワークシートに書いて友だちと意見し合おう。                 </div> <p>2. 自分の選んだ意見文をさらに広げて文章を書くためにワークシートに記入する。</p> <p>3. ワークシートを友達どうして読み合う。</p> <p>4. 本時の学習をふりかえり次時の予告を聞く。</p>	<p>○本時のめあてを確かめる。 ◎字数や論の進め方など確かめ投書を書く見通しをもたせる。</p> <p>○時間をとるためにあらかじめ自分の意見文をワークシートに貼っておく。 ○四つの説得の工夫があれば、付箋などを用意しておき、ワークシートに貼る。 ○どのような理由付けや根拠の挙げ方をするのかワークシートに書いていく。 ○◎☆机間指導し、悩んでいる児童には、話しかけてワークシートの記入を促す。 ★投書を書く話題や主な主張を決め、読み手に自分の考えが伝わるように工夫して構成を考える。 (ワークシート・付箋)</p> <p>○説得の工夫がわかるために、できたワークシートを使って、読む時間を確保した後に話し合わせる。 ○付箋である四つの工夫については必ず話し合うように指示しておく。 ○アドバイスだけでなく良いところや工夫している所も伝えるように話しておく。 ○◎☆机間指導し、会話がペアで進むように助言する。</p> <p>○本時をふりかえり、めあてがうまく達成できたかどうか発表させる。</p>

(3) 研究の視点

ワークシートによる友だちとの意見交流が、学習のねらいに迫る上で効果的であったか。